

平成26年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1490700067	事業の開始年月日	平成21年6月1日
		指定年月日	平成21年6月1日
法人名	大信産業株式会社		
事業所名	グループホーム みのり丸ちゃん山ちゃん		
所在地	(〒235-0011) 横浜市磯子区丸山1丁目 16-5		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成26年1月27日	評価結果 市町村受理日	平成27年5月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>医食同源の考えを大切な事と捉え家庭的、四季を味わえる食事を提供している。開設6年目になり入居者様のニーズも変わりつつあるが、残存機能を活用し今出来る事、楽しめる事が、継続出来る様に取り組んでいる。協力医療機関と医療連携をとり、24時間連携体制を確保し早めの処置により重度化を防いでいる。また最後を住み慣れた、みのりで過ごしたいと希望の御家族、利用者様には医師、訪問看護師の協力のもと看取り介護を支援している。</p>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成27年2月17日	評価機関 評価決定日	平成27年5月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 グループホーム みのり丸ちゃん山ちゃんは、JR根岸線根岸駅からバスで10分、最寄りバス停から徒歩5分ほどの住宅街にある。道路を隔ててすぐ前がスーパーマーケットであり、買物には事欠かない。軽量鉄骨造り3階建て建物の1階は法人が運営する小規模多機能型居宅介護事業所であり、2、3階が当グループホームである。リビングダイニングルームのほかに、談話コーナーが設けられており、家族、友人の来訪時や利用者仲間の話の場となっている。</p> <p>【食へのこだわり】 「みんなの笑顔は食事から おいしく、たのしく、健康に」という法人理念のもと、食材、献立、栄養バランスにこだわった食事を提供している。野菜と卵は新鮮なものを伊勢原市の直売所まで週1回、買い出しに行く。肉と魚は、専門業者に新鮮なものを供給してもらっている。また豆腐は、地元で評判の店で購入する。それらを調理専門職員が、毎食手作りで調理している。木曜日の夕食は「まぐろの日」と決まっており、まぐろの刺身が食卓に並び、利用者に喜ばれている。またおせち、七夕メニューなどその日にちなんだ献立を工夫し、提供することもある。完食の満足感を味わってもらえるように、利用者個々の食事量にも気を配っている。</p> <p>【残存機能維持・向上への取り組み】 残存機能を活用し、利用者の今できること、楽しめることの継続に取り組んでいる。脳トレーニングのゲームは職員が手づくりし、利用者と共に楽しみながら行っている。訪問時は、100歳を越えた利用者が立ったままの姿勢で、番号合わせのゲームに興じている場面が見られた。また廊下での手引き歩行訓練、洗濯物たたみ、食器洗い・収納など生活リハビリにも力を注いでいる。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみのり
ユニット名	丸ちゃん山ちゃん

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	美味しく食べて、心も体も健康を基本として食生活の充実を重ねながら利用者様それぞれのいきでこられた生活を大切にして個別ケアを取り入れ、スタッフ間で連携し実践に努めている。	食に関する法人理念に「認め合って、支え合って その人らしさを大切にします」を加え、事業所理念としている。職員は、利用者が今興味のあること、楽しめることを見出し、個別ケアに結び付けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入し餅つき、夏祭り等の行事に参加し敬老の日には美容学校からの招待で、ヘアセット、ネイルなどして頂き、若い世代の方との交流、近隣への散歩では近所の方に声をかけて頂き交流を深めている。	丸山町内会に加入し、お餅つき、盆踊りなどに参加している。敬老の日には近隣の美容学校に招待され、生徒達にヘアセットやネイルなどをしてもらう。釣り好きの近所の方から魚の差し入れが届くなど、近隣住民との関係は良好である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常生活の中での近隣との交流や見学に来られた方に、ホームでの様子をお伝えする事で認知症があっても穏やかにその人らしく暮らしていられる事が理解されてきていると思います。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に関催し、活動状況を報告し地域の方、ご家族様から評価アドバイスを聞く事ができサービスの向上に活かす事ができている。	家族代表、町内会副会長、民生委員、地域包括支援センター職員、近隣住民参加の下、3ヶ月に1度開催している。事業所の運営報告のほか、防災問題の意見交換も行われている。成年後見人制度などの勉強会を実施することもある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の状況を報告し、指導を頂きながら運営しています。運営推進会議には地域包括センターの職員に出席頂き、ご指導頂いたことには迅速に対応するように努めている。	市の担当窓口とは事故報告などを通じて連携している。要介護認定更新申請代行の機会に、区役所へ訪問し、担当者と情報交換している。また生活保護受給中の利用者の担当ケースワーカーと連携している。横浜高齢者グループホーム連絡会に参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常生活の中で身体拘束になりうる可能性のある事は、その場で確認し合い廃止している ADLの低下、認知症の進行があり車椅子ベッド柵の必要性が増えてきている。ご家族には身体拘束(施錠、ベルト、ベッド柵)の説明、同意を得て使用するとき、しない時を、理解頂いている。スタッフ間では日々の申し送り、記録を通じて流動的なケアに努めミーティング等で身体拘束についての話し合いをして意識を高めている。	身体拘束は原則行わないことを契約書に明記している。やむを得ず行なう場合は、マニュアルに沿い家族と相談の上、同意書を取り交わしている。また実施経過及び理由を記録して、解除に向け努力している。日中、ユニットの出入り口は施錠しないが、玄関は、事務所が手薄になるときは、安全性を考慮し施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常の何気ない言葉の中に傷つけるような言葉がないか、行動が虐待にならないか、日々のケアを振り返りスタッフ一同で共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方がいて学ぶ機会があり、事業所内で知れた情報を伝えあい、必要性があれば活用できる用意がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には納得いくまで説明し、同意を得ている。ご家族が来所された折には、日ごろの様子を伝えながら、心配ごとや不安が取り除かれるように、話しやすい関係作りを心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見BOXを置き、ご家族や関係者から頂いた意見、要望をミーティングに挙げて、意見を出し合い、改善すべき点は、直していけるようにし、ミーティングの記録は会議録にのこしている。	家族の来訪時に意見や要望を聴取している。敬老会、クリスマス会など家族が集まる機会にも要望などを聞いている。家族から出された意見や要望は「ご家族様相談ノート」に記録し、フロアミーティングで話し合い、事業所運営に反映するよう努めている。「ご意見ボックス」を設置している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕、毎日のz申し送りで、情報交換し、状況の変化に応じてミーティングの議題として検証し現状に合った提案をサービスにつなげている。	フロアミーティングや申し送り時に職員の意見を聞いている。管理者が年1回、職員面談を実施し意見・要望を聴取している。管理者は、日頃から気楽に相談できる雰囲気作りに努めている。職員の提案で医療マッサージの導入を図った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいのある職場を目指して、努力や実績が給与、役職等に反映できるようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員のシフトを作るときは、個々の希望を考慮しながら組んで、働きやすい環境にし、スキルアップをはかるための研修参加を全面的にバックアップしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会に加入し勉強会等に参加。横浜市の研修等で同職種の交流や連携を図れるようにしている 同法人内の小規模多機能・グループホームとの交流、情報交換もしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、ご家族様の、要望、疑問点、生活歴、意向等を傾聴し把握する。本人のペースで安心して、お互いの信頼関係を築いていかれるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたり、ご家族様がまだ迷われている事もあり、不安なお気持ちでいらっしゃる事もあるので、まずはお話ししたいことをゆっくりと伺い、その後サービスの開始にあたり必要な事、ご要望等を伺っています。一度では伝わりにくいこともあるので、その後も、連絡を取り合い確認することもあります。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一日の生活状態を観察し、必要な支援を把握、理解して、申し送り帳等に記録し、職員のケアの統一化をはかり、共有するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの出来ることを把握し掃除、洗濯、料理は自主性を尊重し、出来ないことは、スタッフと一緒にやることで会話も増え本人の力が発揮できている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間は特に決めてなく、いつでも来ていただいて一緒にお食事やおやつ、レクリエーション等にもご参加いただけます。行事への参加、通院介助、外出支援等ご家族と協力しながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が入居前から利用されていた地域の、美容院、馴染の店、医者等には継続していかれるように、支援している。 友人、知人からの、手紙、電話、面会も常時お受けしている。	友人の来訪時には、居室や談話コーナーへ案内し、お茶だしなどして歓待している。時には家族の力も借りて、馴染みの場所への外出を支援しており、利用者は美容院、洋食店、墓参りなどに出かけている。手紙、年賀状書きなどの支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活、レクリエーション等で利用者様が、それぞれの出来ることを、お互いに助け合っている。個々の、お気持ちを考慮しながら、よりよい関係性を築いていかれるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、電話、お手紙でご本人、ご家族様の近況を、知らせてくれることもあり、入院 他施設へ移られた入居者様に面会へいくこともある。 相談等にも対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の関わりのなかで、自然に発せられる何気ない言葉を、大切に受け止め、語られないニーズの把握に努めている。	日々の生活や会話の中で、利用者の意向の把握に努めている。意向の把握が困難な利用者には、いくつかの選択肢を投げかけ、表情や態度で推し測っている。その情報を職員はスタッフ会議で共有している。また不在の職員には申し送りノートで伝達している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全職員が、入居者のこれまでの暮らしを知り、共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で勤務中のミーティングや申し送り帳、勤務交代申し送りで、新しい発見や本人が話したさりげない言葉、一日の状態、ADLを共有し、職員全員が把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向が介護計画に反映できるようにプランを作っている。又、職員間でミーティングをして、ADL、生活状況等を把握し、在宅医、訪問看護師の見解もとりにいれて、今後の方向性も含めた介護計画を作成している。月末にはモニタリングを行っている。	3ヶ月に1度のモニタリングを実施し、6ヶ月ごとに介護計画書の見直しを実施している。家族の意向、主治医の指示などを取り入れた介護計画としている。個人記録の下段に「介護計画の短期目標」が記載されており、職員は目標を意識しながら支援にあたっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	見やすく、わかりやすい記録を目標とし、申し送り帳も利用して職員間の情報共有を行い、常にケアマネージャーと連携し、日々のケア、介護計画の見直しに役立てている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の変化するニーズに対応できるような支援を行い、場合によっては、他の社会資源・施設等との連携もはかっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住み慣れた地域の中での生活が継続できるように地域の情報を把握し、ご本人がたのしめるようにしています。定期的な地域の催しは楽しみにされており安全に参加できるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関への受診に協力している。連携医療機関を利用する場合は、本人や家族に説明し、了解をもらって受診している。	2ヶ所の病院から、それぞれ複数の医師が、2週間に1度往診している。4名の利用者が入居前のかかりつけ医を利用し、原則家族が通院の対応をしている。皮膚科医の往診は週1回、訪問歯科医は必要に応じ来訪している。訪問看護師は週1回来訪し、健康管理をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の毎週一回の健康チェックと在宅医の診察を受け24時間相談できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の主治医と連携をとり診療情報の提供を受け退院後の生活を安心して過ごせるように相談し指導を受けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に関する指針を説明し同意を得た上で医師、看護師、家族を交えて話し合い方向性を確認し看取り介護を支援している。家族の思いは、その時その時で変わる事があるので入居者様の、ご様子ご家族の思いに沿って終末期をどこで、どう迎えたいかの、ご意見を伺い同意書の作成をしています。	入居契約時に「重度化・終末期ケア対応指針」に基づき、重度化した場合の事業所の対応し得る範囲について説明し、利用者、家族と方針を共有している。重度化への対応が必要となった場合は、医師を交え、段階的に関係者で対応を検討している。事業所での看取りを決めた場合は「看取り介護についての同意書」を医師を交え取り交わしている。事業所での看取り事例は数例ある。	事業所での看取りを経験し、家族から感謝されたことは、職員の自信と誇りになっています。今後は経験をふまえて、より研修を充実させることを期待します。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設より5年が経過し、ホームの中でも経験を積むことができ、乱すことなく対応できる状況になってきました。今後もミーティングや研修を通して（特に新人スタッフに重点を置いて）実践力を身につけ、急変や、事故発生時に適切な対応ができる体制作りをしてまいります。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期の避難訓練参加し、日頃から防災意識をもつように心がけています。今後は、火元の場所等、設定を変えながら訓練をしていくことを予定しています。	年2回の防災訓練を実施している。内1回は消防署の立会いがある。夜間想定訓練も実施している。運営推進会議と同日に行い、メンバーの参加があった。非常食、飲料水などの備蓄がある。	運営推進会議などを通じ、引続き、地域の協力を呼び掛け、地域住民協力の下で、防災訓練を実施することを期待します。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を大切にし、入浴や排泄時には、本人の意思を大切にしている。声かけの言葉にも留意し、さりげなく介助を行っている。	人生の先輩として敬いの気持ちを念頭に置き、家族に聞かれても恥ずかしくない声かけを心掛けている。排せつ介助や失禁処理は、他の利用者に気づかれないよう特に注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症がある為、自分の思いが上手く伝わらず、誤解されてしまうことも多くあり、不信感に繋がらないように配慮し、一人一人に傾聴するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や活動等の時間は、概ね決めてありますが、参加や決定は、ご本人に、お任せしています 無理強いをせず楽しく参加して頂けるように声かけを心がけ他利用者、職員との交流を大切に、ご本人のペースで生活できるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人らしい、ご本人が好きな装いをして頂いています。季節に合わない、正しく着用出来ていないときは、さりげなく伝えて納得されてから一緒に服を選び着用して頂いています。散髪、髪染め等のお手伝いをしています。髪の毛の乱れ、衣服の汚れ、ひげ剃り等、清潔、整容に配慮しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器の片付け等を職員とともにしている。季節感を大切にした食事に留意し、スタッフも入居者と同じ物を食べながら食材や、季節等の思い出話で盛り上がるように、話題を提供している。	四季折々の旬の食材を使い、安全で家庭的な料理を調理専門の職員が手づくりしている。職員も同じものを利用者と一緒に食べている。可能な利用者は、食器洗いや収納などを職員と一緒にしている。誕生日は、フロアごとにおやつを手作りしてお祝いしている。食事デイでは餃子などを作り楽しんでいる。外食をすることもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人個人の、お食事量や、お食事をされている様子を把握し、記録をもとに少ない時には食事以外にも補食として、好きなものを、お出ししている。食事量、水分摂取量の少ない時、体調不良時には通常の記録の他に細かく量を記録するようにし、一日の摂取量がとれるようにし、必要と判断した時には医療と連携し、適切な対応が出来るようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、お一人ずつにあわせた口腔ケアをしています。 必要に応じて訪問歯科受診もしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お一人お一人にあわせた排泄パターン、習慣を認識し排泄記録をもとに、トイレの声かけをし 快適に清潔に過ごせるように配慮しています。	排泄チェック表でパターンを把握し、トイレ誘導を行っている。夜間もトイレ誘導を基本としているが、利用者の状態により睡眠を優先する場合は、定期的にパッドを取替え清潔保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、体操で体を動かし10時の、おやつにバナナ、ヨーグルトを召し上がって頂き水分摂取にも配慮しています。排泄表で排便の有無を確認し、便秘のときは、処方されている下剤等を服用して頂くよう排便管理をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴を規範としているが、入浴の希望があった時には入浴して頂いています。 拒否がある方も、おられますが無理強いをせず、時間をおいて再度お誘いしたり、声をかける職員をかえたりと工夫しています。	入浴は原則として週2回、午後の時間帯で実施しているが、回数、時間帯は希望により柔軟に対応している。入浴日以外の日には足浴をしている。また炭酸泉発生器を使用することもある。職員は利用者とのコミュニケーションを大切にし、入浴を楽しんでもらっている。入浴を好まない利用者には、声かけを工夫し、入浴を促している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、夜間の入眠は、ご本人の希望を尊重している。 深夜まで休めない様子や興奮状態がある方には、眠くなるような雰囲気づくりをして落ち着いて眠れるように配慮しています。リネン交換はこまめにし、温度、湿度、照明に注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬の目的、用法、用量を薬情報で確認し、把握している。服薬の時には、二人対応で声をかけあい、目で確認している。薬の変更があった時は申し送り帳に記載し、職員全員の目にとまるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな事、得意な事を把握し、縫い物、洗濯物たたみなど、職員と一緒にやっている。又、日常のレクリエーションのなかで、それぞれの楽しみ事が増えるように工夫している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、美容院、通院等、ご家族や地域の方の協力を得て行い、一人ひとりの希望に沿うように個別対応をしている。	日常の散歩のほか、近くの商店で買い物を楽しむ機会もある。ドライブを兼ね梅や桜の花見、紅葉狩りに出かけている。初詣では、職員の介護福祉士試験合格祈願をした。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来るかたには所持していただき、支援の必要なかたには、行事、外出等の時に自分で支払ができるようにお手伝いをしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にかかけられるようにし、外からかけたい方には付き添って行く事もある。ご自分でかけられないかたは、スタッフがお手伝いし、かかってくる電話は取り次いでいる。レクリエーションで作成した家族あての手紙を送ったりもしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋の掃除を一緒にしたり、季節の飾り等を共同作業で作って、食堂やリビングに飾っています。	リビングダイニングの壁には季節感ある飾り物や利用者の作品、行事の写真を飾っている。リビングダイニングのほかに、談話コーナーが設けられており、体操をしたり、面会室になったりと多目的に活用されている。長い廊下の2か所に作り付けのベンチを設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は自然に定着してきましたが、その日の気分や希望なども取り入れるように固定でなく、臨機応変に対応しています。リビングのソファはテレビを見たいとき、ひとりで寛ぎたいとき等、状況に応じて自由に楽しんでいただけるように配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	鏡台、タンス、仏壇等、ご本人の好みや使い慣れたものをお持ちいただき、自由にレイアウトしていただいています。カーテンは安全を第一に考えて防災のものにしています。	利用者は防災カーテンを掛け、使い慣れた整理ダンス、テーブル、いす、仏壇などを持ち込んでいる。また家族の写真や、趣味の絵手紙などを飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室ドアにはわかりやすく書いた名札と各自の好きなマスコットや写真を飾ったりしている。床は段差をなくし、トイレ、浴室等はわかりやすいように表示して迷わずに移動できるようにしています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームみのり
丸ちゃん山ちゃん

作成日 平成27年 5月23日

【目標達成計画】

優先 順位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	1	現在看取りについての理解及び経験についての格差がある。またそれを補うための研修が不足している。	格差を補うための研修を行う	事業所としての指針をスタッフに周知させる。 看取りについて基本的な事についての研修を行う。 過去の看取りについての事例検討を行う	六か月
2	2	今まで年二回の避難訓練を行ってきたが外部評価での指摘にある避難訓練での地域との連携についての取り決めがなかった。	住民参加の避難訓練に関する範囲を知る。	住民参加の避難訓練について相談 運営推進会議にて相談内容を説明し出来る事の協力を、お願いする 夜間を含め日中での避難訓練を見学して頂き地域住民より意見を頂く。	六か月
3					
4					